

兵庫保険医新聞

第1465号

発行所 兵庫県保険医協会

2005年8月5日

〒650-0024 神戸市中央区海岸通1丁目2-31
神戸フコク生命海岸通ビル5F ☎078-393-1801
(1部350円送料共・年間購読料12,000円)
振替01190-1-2133

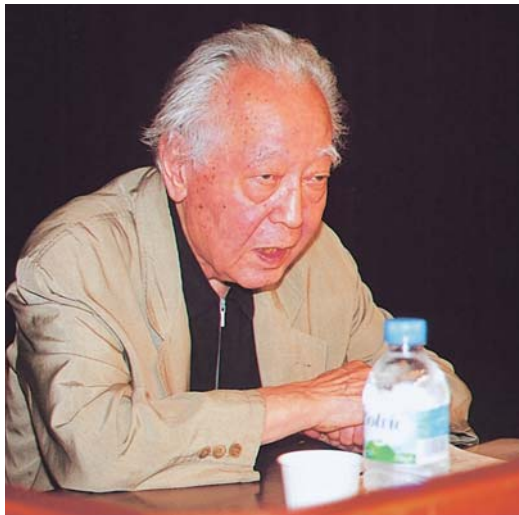
(会員の購読料は会費に含まれています)

医療人こそ9条の擁護を

～加藤周一講演に400人～

「生命尊重の価値観を持つ医師は、戦争放棄の憲法9条の守り手になりうる」。九条の会・兵庫県医師の会が7月30日に行った講演会「私と憲法9条」で、加藤周一氏は、医師が平和憲法を守る特別の意味をこら表現した。会場をつめつくした400人の参加者が講演に聞き入った。

この講演会は、昨年結成された「九条の会・兵庫県医師の会」(以下・医師の会)が企画したもの。この日は「九条の会・スピー



「病氣(戦争)に勝つよりならないこと(予防)が大切」と加藤氏

講演で加藤氏は、日本国憲法の持つ最大の特徴として、国の交戦権を認めないことを強調。この理想を実現するために、医療者医師の立場で生命尊重の観点という大きな共通の価値観から戦争を防ぐ活動をおこなうことが大切であるとし、医療者が平和運動することの可能性を中心に論じた。加藤氏は「生命尊重の価値観を前面に出すことで、全ての医師は平和主義者になりうる。治療には症状と病因に対する対処、つまり対処療法と根本療法が必要。このアナロジーで平和を考えれば、戦争の症状、つまり現在進行中の戦争被害を少なくすることと同時に、なぜ戦争がおこるのかという病因論の分析を忘れてはならない」と強調。その上で「医療では早期発見、早期の治療開始が重要だが、さらにいいことは病

「生命尊重の価値観を持つ医師は、戦争放棄の憲法9条の守り手になりうる」。九条の会・兵庫県医師の会が7月30日に行った講演会「私と憲法9条」で、加藤周一氏は、医師が平和憲法を守る特別の意味をこら表現した。会場をつめつくした400人の参加者が講演に聞き入った。

気にならないこと。公衆衛生、予防医学のメタファーを利用し、戦争の原因をそのぞく方法を考察すべき。病氣(戦争)に罹らない、つまり戦争をしないことが大切」と、医療者の思考手順でこの問題を考える有効性を説いた。この日は主催者を代表して、森昌彦朝日大学名誉教授があいさつ。活動報告では尼崎医療生協の田村真希先生、大阪大学で「九条の会」を結成した城戸良弘医学部教授、九条の会・兵庫県医師の会の八木秀満先生がそれぞれの取り組みを報告し、九条の会のアピールを広げる決意を固めあった。最後に兵庫県保険医協会の池内春樹理事長が「医師・医療者が先頭に立って平和・いのちを守る国づくりをめざそう」と参加者に訴えた。(加藤周一氏の講演は後日詳報予定)

県社保協総会

社会保障の総改悪を断固阻止しよう

～武村義人先生を新会長に選出

労働運動の退潮で社保協が危機になったときも、兵庫県社保協は桐島会長(協会理事長・当時)のもとで活動を続け、社会保障運動が最重要の国民の課題になっている今日まで活動を持続できたことを強調した。



45人が参加して運動の前進を誓いあった

武村新会長は、全面的に国民生活への破壊を強める現在の小泉自・公内閣の悪政との対決と、「平和憲法九条を守る戦い」を、地域から粘り強くすすめる決意を表明した。

総会記念講演では、大阪の「介護保険料に怒る一揆の会」の日下部雅喜氏が、生活保護基準以下の低所得者である「月額1万5千円の年金生活者からも保険料を強制徴収する介護保険法は、憲法14条(平等原則)と25条(生存権保障)に違反する」として起こした大阪の「介護保険料違憲訴訟」について講演。第一審判決では「保険料

主張

平和とは空気あるいは酸素と似たものかと思う。日常生活では全くその存在を感じることはない。しかし、その存在が脅かされた時にはじめてそのありがたみが分かる。平和も同様である。しかし、戦争もない安閑とした世の中では必ずといってよほど平和ほけを攻撃する者たちがでてくる。近隣諸国が侵略をたくらんでいから先制攻撃でこれを防止しようとか、海外での権益を守るうとか言い出す人もでてくる。しかし、戦争ほど反人間的行為はないのである。医師は病気を治療し、人々の健康を守るのが任

務である。しかし、戦争になれば治療する以上に死者や怪我人や病人が増える。もし戦争に賛成する医師がいるなら、放火したあとで消防活動する消防士と変わらない。だから医師には戦争に反対する義務がある。

虐殺もこのような狂気によるものである。太平洋戦争終結後、アメリカの下で日本国憲法が制定された。アメリカが押し付けたものだからこの憲法は間違いだとか、ふさわしくないとの意見がある。日本人によ

ある。平和を守るべき立場にある医師は、とりわけ日本国憲法、特に九条を守る義務があると思う。最近靖国神社への首相参拝問題や、「新しい教科書を作る会」などが国際問題となっている。太平洋

からないというならともかく、満州事変から100年も経っていないこのたびの一連の出来事で、言い訳しても仕方がない。アジアにおいて大日本帝国軍は数千万人を殺しており、この事実はいくら繕っても消えない。事実を認めて謝罪すべきなのに開き直るようでは、近隣諸国との友好は保てない。第2次大戦中のナチスの蛮行を認め謝罪や賠償をしているドイツと対照的である。

医師および医療関係者は病気を治すだけではなく、平和を愛し戦争に反対するべきであり、反戦平和活動の先頭に立つべきである。

戦後60年と平和問題

かつて、多数の残虐な人体実験を行った石井部隊というものが存在したが、凶悪な性格の医師が多数存在したとは信じたくない。これも戦争による狂気の一例であろう。広島・長崎への原爆攻撃やナチスによるユダヤ人

戦争における日本の責任を全く否定しているこの両者は、国際問題になっても仕方がない。戦争は最大の暴力であり犯罪であるから、その責任は厳しく追及されるべきである。何千年も前の出来事で状況がよくわ

協や各団体の代表が、県の「福祉医療改悪」の影響、障害者自立支援法、サラリーマン大増税と消費税引き上げの動き、生活保護の締め付け、年金給付額の切り下げ、医療保険料・窓口負担の引き上げ、高額な国保保険料、介護保険改悪など、国民生活の全面的な破壊に対する怒りの声が次々と表明された。(海)



勇退する会至誠会長に花束

勇退する会至誠会長に花束贈呈の様子。勇退する会至誠会長は、県の「福祉医療改悪」の影響、障害者自立支援法、サラリーマン大増税と消費税引き上げの動き、生活保護の締め付け、年金給付額の切り下げ、医療保険料・窓口負担の引き上げ、高額な国保保険料、介護保険改悪など、国民生活の全面的な破壊に対する怒りの声が次々と表明された。(海)

燭心

オリンピック競技から野球とソフトボールがなくなることに。世界的にみるとあまり普及していないなどの理由で筆者には非常におもしろいスポーツだが、競技中投手と投手以外ほとんど動かない。草野球レベルでは外野手は突っ立っているだけ。古代オリピックは神に捧げる神聖なものであった。そういう競技にはプレー中にタバコが吸えるほどのものは許されまい。全てのスポーツにおいて走ることには絶対必要であり、球技ではなおさらである。走り回ることが少ないのが不人気原因かホームランを打ったらほぼ無条件で点できるのもあまりふさわしくないのかもしれない。ランニングホームランのみ認めてフェンス越えはすべてエンタイトルツーパーズにすれば、ハードな競技らしくなって良いかもしれない。しかし、プロ野球などでこんなルールにしたら観客は減るだろう。今年のプロ野球では阪神が強い。昔の阪神みたいに打つだけでその他は全然、ということがない。攻守守どの方面も鍛え上げられている。大昔巨人が強かった頃は、投手を含めた守備や走塁がすばらしかった。基本が完璧にできていた。しかし長嶋や王がいたから強かったと誤解されていた。このことが結局現在の巨人の凋落を招いたと思う。阪神はこのことを頭に刻み込み臥薪嘗胆の努力をしたからいい野球ができるのである。▼阪神のチームプレーのすばらしさを我々も学習して団結し、混合診療などの改悪に対決しよう。(海)